

IODEP マニュアル  
《SELCO マルチプレクサ SXC-16LT》  
rev 1.0

2013/04/18 株式会社 Javatel

# 目次

IODEP マニュアル 《SELCO マルチプレクサ SXC-16LT》 rev 1.0.....	1
目次.....	2
1 この文書について.....	3
2 変更履歴.....	4
3 ハードウェアの準備.....	5
3.1 SELCO マルチプレクサ SXC-16LT の準備 (RS-232C 接続の場合) .....	5
3.1.1 SXC-16LT の設定.....	5
3.1.2 コネクタ接続.....	5
3.1.3 ICS-100 の設定 .....	6
3.2 SELCO マルチプレクサ SXC-16LT の準備 (RS-485 接続の場合) .....	6
3.2.1 SXC-16LT の設定.....	6
3.2.2 コネクタ接続.....	7
3.2.3 ICS-100 の設定 .....	7
3.3 接続テスト.....	8
3.3.1 マルチプレクサ SXC-16LT との接続テスト.....	8
4 設定ファイルの準備.....	9
5 メッセージ送受信詳細.....	エラー! ブックマークが定義されていません。
5.1 定義ファイル名.....	10
5.2 IODEP→SELCO マルチプレクサ SXC-16LT.....	エラー! ブックマークが定義されていません。
5.2.1 Selco マルチプレクサへの実行コマンド書式.....	10

## 1 この文書について

本文書では、IODEP と SELCO マルチプレクサ SXC-16LT との連携方法について記述します。「IODEP\_共通.doc」を先に読んでいることを前提とします。

## 2 変更履歴

1.0 2013/04/18 マニュアルの文書構成を大幅に見直し。複数ファイルに分割。

### 3 ハードウェアの準備

#### 3.1 SELCO マルチプレクサ SXC-16LT の準備 (RS-232C 接続の場合)

SXC-16LT と ICS-100 を RS-232C 接続します。

##### 3.1.1 SXC-16LT の設定

まず、SXC-16LT の「MENU」ボタンメニュー→「Unit Setup」→「Network Type」を RS-232 に設定します。

##### 3.1.2 コネクタ接続

コネクタは以下の様に接続してください。

ICS-100	SXC-16LT
9Pin コネクタ 2 番 RxD	25Pin コネクタ 10 番 TX Input
9Pin コネクタ 3 番 TxD	25Pin コネクタ 9 番 RX Input
9Pin コネクタ 5 番 GND	本体ケースグラウンド ([Common])

シグナル GND をケースに繋ぐのは標準的ではありませんが、SELCO よりそのように指示を受けております。配線については、下記のマニュアル抜粋図を参考にしてください。

#### 付録 B- リモートコントロールとコネクタ接続

マルチプレクサ本体背面の PIN 配列は以下のとおりです。  
 万が一、イン/アウト、VCR トリガ、RS-232、RS-485 ご使用の際は以下を参照願います。  
 システム・イン、VCR トリガの [Common] は、本体への接続となります。合わせて、以下参照願います。

PIN Number	Connector PIN Assignment
1	Alarm Input 1
2	Alarm Input 2
3	Alarm Input 3
4	Alarm Input 4
5	Alarm Input 5
6	Alarm Input 6
7	Alarm Input 7
8	Alarm Input 8
9	RS-232 RX Input
10	RS-232 TX Input
11	RS-232 RX Output
12	RS-232 TX Output
13	VCR Trigger Input
14	Alarm Input 9
15	Alarm Input 10
16	Alarm Input 11
17	Alarm Input 12
18	Alarm Input 13
19	Alarm Input 14
20	Alarm Input 15
21	Alarm Input 16
22	Alarm Hold Input
23	Alarm Output Common
24	Alarm Output NC
25	Alarm Output NO

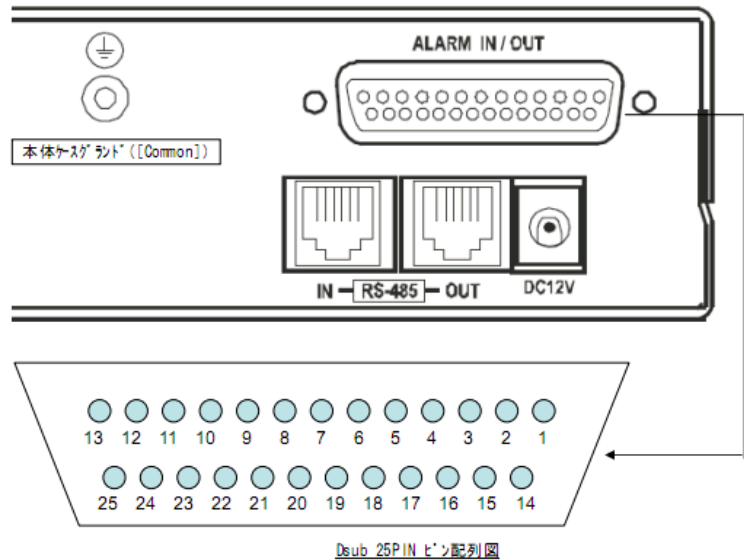


図 SXC-16LT マニュアル p37, p38 より抜粋

## A.2 Device's RJ-232/RS-422/RS-485 Pin Assignments

➤ DB9 Pin Define for RS-232 / RS-422 / RS-485

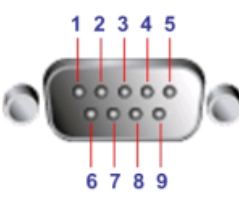
	DB9-PIN	RS-232	RS-422/485 4-wire	RS-485 2-wire
	1	DCD		
	2	RXD		
	3	TXD		
	4	DTR	RX-	Data B(-)
	5	GND		
	6	DSR	TX-	
	7	RTS	RX+	Data A(+)
	8	CTS	TX+	
	9	RI		

図 ICS-100 マニュアル p55 より抜粋

### 3.1.3 ICS-100 の設定

RS-232C 接続する場合、ファームウェアの更新は必須ではありません。

[Network Configuration]

DHCP Client : Disable

IP Address : (LAN 内の固定 IP アドレスを指定)

Subnet Mask, Gateway, : LAN 内の設定に準拠

DNS : 0.0.0.0

System Name : ICS-100-X (他の ICS-100 と区別するために分かり易い名前を付けてください)

[[Operation Mode]

Serial Port Operating Mode : Pair Connection – Local(Master)

Support Protocol : (チェックしない)

TCP Port Number : 1024

Inactive Timeout : 20

[Serial Port Configuration] (SXC-16LT の仕様に準拠)

Mode : RS232

Baudrate : 1200

Character Bits : 8

Parity Type : none

Stop Bit : 1

Hardware Flow Control : none

Delimiter : 全てチェックしない

## 3.2 SELCO マルチプレクサ SXC-16LT の準備 (RS-485 接続の場合)

SXC-16LT と ICS-100 を RS-485 接続します。

### 3.2.1 SXC-16LT の設定

まず、SXC-16LT の「MENU」ボタンメニュー→「Unit Setup」→「Network Type」を RS-485 に設定します。

### 3.2.2 コネクタ接続

コネクタは以下の様に接続してください。向かって左側、RS-485 IN を使用します。

ISC-100	SXC-16LT
9Pin コネクタ 6 番 TX-	RJ-45 コネクタ IN 4 番 RS485-
9Pin コネクタ 8 番 Tx+	RJ-45 コネクタ IN 6 番 RS485+

RS485 2-wire ではなく、RS-422/485 4-wire の接続ですのでご注意ください。

配線については、下記のマニュアル抜粋図を参考にしてください。

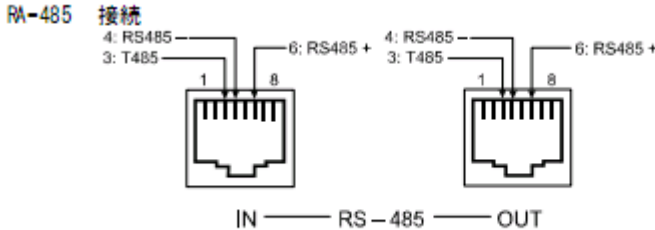


図 SXC-16LT マニュアル p38 より抜粋

#### A.2 Device's RJ-232/RS-422/RS-485 Pin Assignments

DB9 Pin Define for RS-232 / RS-422 / RS-485

	DB9-PIN	RS-232	RS-422/485 4-wire	RS-485 2-wire
	1	DCD		
	2	RXD		
	3	TXD		
	4	DTR	RX-	Data B(-)
	5	GND		
	6	DSR	TX-	
	7	RTS	RX+	Data A(+)
	8	CTS	TX+	
	9	RI		

図 ICS-100 マニュアル p55 より抜粋

### 3.2.3 ICS-100 の設定

RS-485 接続する場合、ファームウェアの更新を行ってください。

- 1) [http://www.planet.com.tw/en/support/download2.php?id=16529&file\\_type=65&prod\\_model=ICS-100](http://www.planet.com.tw/en/support/download2.php?id=16529&file_type=65&prod_model=ICS-100) より、ICS-100 Firmware 1.3b090114 をダウンロードし、任意のフォルダに解凍します。
- 2) ICS-100 の設定画面にて、[System] – [Firmware Update]の画面で、「Load」をクリック
- 3) ファイルアップロード画面にて、(1)で解凍した「FW-ICS-10X\_V1.3b090114.bin」を指定して「Update」をクリック
- 4) しばらく待ってから、AC アダプタを抜き差しして再起動
- 5) [System] – [System Information]の Software Version の記述が変化しないため判りにくいですが、おそらく成功しているはずです。

[Network Configuration]

DHCP Client : Disable

IP Address : (LAN 内の固定 IP アドレスを指定)

Subnet Mask, Gateway, : LAN 内の設定に準拠

2013 Javatel

DNS : 0.0.0.0

System Name : ICS-100-X (他の ICS-100 と区別するために分かり易い名前を付けてください)

[[Operation Mode]

Serial Port Operating Mode : Pair Connection – Local(Master)

Support Protocol : (チェックしない)

TCP Port Number : 1024

Inactive Timeout : 20

[Serial Port Configuration] (SXC-16LT の仕様に準拠)

Mode : RS485

Baudrate : 1200

Character Bits : 8

Parity Type : none

Stop Bit : 1

Hardware Flow Control : none

Delimiter : 全てチェックしない

---

## 3.3 接続テスト

---

ここまでの設定で、ソケット送信アプリケーションを利用してデバイスとの接続テストを行うことができます。

[PuTTY] 日本語版

<http://hp.vector.co.jp/authors/VA024651/PuTTYkj.html>

をインストールし、

ホスト名 : (ICS-100 のアドレス)

プロトコル : Raw

ポート : 1024

で接続します。

ホールコンピュータから受信したシグナルが、PuTTY 画面に表示されます。

---

### 3.3.1 マルチプレクサ SXC-16LT との接続テスト

---

PuTTY の画面で「/33」と入力すると画面が 3x3 の分割レイアウトとなります。

「/01」と入力するとカメラ 01 が全画面表示となります。



## 4 設定ファイルの準備

インストールフォルダ C:\¥Javatel¥IODEP にある、**iodep.ini** ファイルをテキストエディタで編集してください。空行および、行頭が「#」で始まる行は無視されます。

IODEP.selcoHost.1	Selco スイッチャーを接続する ICS-100 の IP アドレスとポート番号を「:」で連結して記述します。 ポート番号は通常は 1024。(ICS-100 の設定に従う)
IODEP.selcoHost.n (n は自然数)	同上。ライセンスで許可された数だけ設定できます。

## 5 IODEP→SELCO マルチプレクサ SXC-16LT

各デバイスから受け取ったメッセージに応じて、IODEP は SELCO マルチプレクサに対してコマンドを送信します。コマンド定義ファイルは ConfigMaker.exe で編集することができます。

### 5.1 定義ファイル名

コマンド定義ファイルのファイル名は、以下のように決められています。

- ・ ダイコク電機ホールコンピュータから受信したシグナルによって Selco マルチプレクサへコマンド実行する定義  
→daikoku-selco.dbx
- ・ SMTP メール送信の TO アドレスによって Selco マルチプレクサへコマンド実行する定義  
→smtp-selco.dbx

### 5.2 実行コマンド詳細

#### 5.2.1 Selco マルチプレクサへの実行コマンド書式

Selco マルチプレクサ用の定義ファイルでは、以下の要素を半角スペースでつなげてコマンドを定義します。

**#3** (半角スペース) **Camera** (半角スペース) **1**  
マルチプレクサ番号                      コマンド                      引数

- ① マルチプレクサ番号  
マルチプレクサの番号。アプリケーションの設定ファイル(**iodep.ini** ファイル: 4.2 章)で定義された番号を使う。
- ② コマンド  
大文字小文字は区別しない。下記コマンド一覧を参照。
- ③ 引数  
コマンドの補足情報  
アーカイブに daikoku-selco.dbx.sample を添付します。

表 1 実行コマンド定義の例

コマンド定義の例	解説
#1 Camera 1	マルチプレクサ 1 でカメラ 1 を全画面表示する (ここで「カメラ 1」の「1」という数字は Omnicast 上の論理 ID ではなく、マルチプレクサに接続されたポートの番号であることに注意)
Wait 1s	1 秒間ウェイト

表 2 コマンド一覧

コマンド	マルチプレクサ番号	引数	内容
Camera	整数値	カメラ番号 (マルチプレクサに接続されたポートの番号)	指定したカメラの映像を最大表示する
Layout	整数値	レイアウト (22,33,44 のいずれか)	指定のレイアウトに変更する
Wait	なし	ミリ秒 (末尾に s をつけると秒)	ウェイト

